

## 平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	三重県
-------	-----

### I 概要

#### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

#### ②モデル校の一覧

※学校ごとに別紙1「学校等の概要」を別途記入してください。

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
公	特	知的障がい	みえけんりつとくべつしえんがっこう 三重県立くわな特別支援学校
公	特	知的障がい	みえけんりつとくべつしえんがっこうたまき 三重県立特別支援学校玉城わかば学園

#### 2 研究課題（80字程度）

特別支援学校の就労支援体制として、キャリア教育の充実に向けた各種技能習得の取組、生徒本人の適性を十分把握したうえで、適した職種・業務と必要な支援の方法を企業に提案する形の職場開拓の実施、各関係機関との就労支援ネットワークの構築が効果的に機能することを検証する。

#### 3 研究の概要

本研究では、特別支援学校における企業就労希望者の増加に対応するため、生徒の適性に応じた職種・業務とともに必要な支援の方法を企業に提案する形の職場開拓や、各校におけるキャリア教育の充実、関係機関との連携等に係る取組が、就労支援体制として有効に機能するかを検証する。

##### ア キャリア教育の充実

- ・各校別の特別支援学校版キャリア教育プログラムの作成・活用を進める。
- ・早期からの職場実習を実施する。
- ・就労につながりやすい技能習得に係る講習・検定の充実を図る。

##### イ 職場開拓

- ・企業経験豊かな外部人材を活用し、生徒本人の適性を十分把握したうえで、適した職種・業務と必要な支援の方法を企業に提案する形の職場開拓を進める。

##### ウ 就労支援ネットワークの構築

- ・各関係機関との密接な連携のもとで卒業後の生活へのスムーズな移行を図る。
- ・企業向け学校見学会の開催によって企業への理解啓発を図る。

以上3点の取組について、モデル校や関係者に対する調査、会議の実施頻度、参加者からの意見聴取等を通して総合的な評価を行い、その成果をモデル校にフィードバックするとともに、県内全ての特別支援学校に情報共有することにより効果的な就労支援体制の構築を図る。

## 4 研究の成果

### ア モデル校による取組

#### a キャリア教育の充実

- ・モデル校において特別支援学校版キャリア教育プログラムを作成し、「キャリア教育にもとづく授業づくり」をテーマとして授業公開を実施した。生徒が主体的に活動するための授業改善により、生徒一人ひとりの課題が明確となった。キャリア教育プログラムを個別の指導計画及び日々の授業と連動させることで就職を目指す生徒の希望を実現するとともに、必要な能力や態度の育成について確認することができた。
- ・モデル校では、高等部1年生段階から1週間のうち1日を企業で学ぶ職場実習と2週間程度を毎日連続して生徒一人で実施する職場実習とをあわせて、計画的に年間スケジュールに組み込んだ。その結果、2年生段階の職場実習において生徒本人の適性にあった職種の選択が可能となり、3年生段階では就職を前提とした職場実習の流れが確立した。
- ・清掃技能検定では、検定級取得において同一級の取得が多いなどの課題があったため、モデル校が中心となり手順書及び評価基準の見直しを行った結果、評価基準の標準化につなげることができた。モデル校の先進的な取組を参考に各特別支援学校においても技能の習得に向け、職業に特化した教育内容の充実を図ることができた。具体的には、県教育委員会が実施する清掃技能講習会（1回）及び検定（2回）、接客サービス講習会（1回）及び検定（1回）、看護・介助業務補助技能講習会（1回）及び検定（1回）に積極的に参加することにより、高等部生徒の職業観や勤労観の育成や就労への意欲向上を図ることができた。

#### b 職場開拓

- ・企業経験豊富な外部人材をキャリア教育サポーター（以下「サポーター」という。）として活用し、サポーターがモデル校の状況を把握したうえで職場開拓を進めた結果、障がい者雇用を考えている企業の疑問や不安に即時に対応することができた。
- ・モデル校で実施した職業アセスメントによる客観的な評価に基づき、生徒一人ひとりの適性を十分に把握したうえで、適した職種・業務と必要な支援の方法を企業に提案した結果、職場実習・雇用先の拡充など、職場開拓を進めることができた（サポーター2名による企業訪問数：延べ1,302件）。
- ・サポーターが担当するモデル校2校の高等部就職希望者41名について、3年生段階において、就職を前提とした職場実習を実施することで、全員がその企業に就職することができた。
- ・新たに進路指導を担当する教員を対象としたモデル校での職員研修において、サポーターが指導・助言することにより教員が企業訪問のマナーや心構え等を身につけることができた。

#### c 就労支援ネットワークの構築

- ・サポーターが、就労支援に係る会議等に参加し、関係機関等と積極的に情報共有を図ることで、連携方法等を確認し具体的な取組を進めることができた。
- ・高等部生徒が卒業後の安定した就労生活を送ることができるよう、モデル校2校においてサポーターと教員が協力して、企業、医療、福祉等の関係機関と連携した会議等を開催したことに

より、スムーズな移行につなげることができた。

- ・モデル校において、企業向けの学校見学会（くわな特別支援学校：平成28年7月12日開催、36社から41名が参加。玉城わかば学園：平成28年9月15日開催、17社から31名が参加。）を実施した。見学会では、既に障がい者雇用を行っている企業が今後、障がい者雇用を検討している企業に対して情報提供や助言をする機会を設けることにより、特別支援学校を核とした地域の就労支援に係るネットワークの構築を進めることができた。

#### イ モデル校の手法を県内特別支援学校に拡大する取組

以上3点の取組や成果をネットワークの構築を図る会議等において情報共有し、効果的な就労支援体制について県内全ての特別支援学校に取組を広げたことにより、平成28年度県立特別支援学校高等部卒業生のうち76名が一般企業へ就職することができた。

## 5 課題と今後の方策

### ア モデル校における課題と今後の方策

#### a キャリア教育の充実

- ・特別支援学校において、特別支援学校版キャリア教育プログラムと個別の指導計画に基づき生徒一人ひとりの課題を明確にした授業内容の改善を図るシステムが必要であることから、公開授業を実施して外部からの評価を取り入れ、プログラムの活用を促進していく。
- ・各種技能検定は、高等部生徒の職業観や勤労観の育成や就労への意欲向上を図る有効的な手立てであり、さらに取組を充実させる必要があることから、企業のニーズに柔軟に対応した検定種目の見直しや新たな検定の創出について検討していく。

#### b 職場開拓

- ・特別支援学校においては、進路希望の実現のため、引き続き企業経験豊富な外部人材を「サポーター」として活用し、職業アセスメントによる客観的な評価に基づき生徒一人ひとりの適性を十分に把握したうえで、適した職種・業務と必要な支援の方法を企業に提案する形の職場開拓を実施する必要がある。さらに企業のニーズと障がい種別の適性に応じたマッチングを図る新たな職域について検討を進めていく。

#### c 就労支援ネットワークの構築

- ・サポーターが、引き続き就労支援に係る会議等に参加し、関係機関等と積極的に情報共有を図ることで、連携方法等を確認するとともに具体的な取組を進める必要がある。また、高等部生徒の卒業後の安定した就労生活につなげるため、企業、医療、福祉等の関係機関の役割を明確にし、モデル校における効果的な就労支援の取組を関係機関等と連携して広めていく。
- ・モデル校において実施した、企業向けの学校見学会等の取組を県内の特別支援学校に広げるとともに、特別支援学校を核とした地域の企業との就労支援に係るネットワークの構築を進めることが必要であることから、関係機関等と連携し企業や地域に向けた障がい者雇用に係る理解啓発をより一層図っていく。

### イ モデル校の手法を県内特別支援学校に拡大する取組

以上3点のモデル校の取組や成果及び課題を特別支援学校の各種会議等において共有するとともに、早期からの職場実習の実施など効果的な就労支援体制について県内全ての特別支援学校に取組を広げていく。